

# 第34回 芝山はにわ祭

いしにえ  
～古と現代の融合～



快晴に恵まれた11月13日。町の一大イベント「第34回芝山はにわ祭」が開催されました。

古代の衣装を身にまとい、町の小・中学生が扮する古代人は「降臨の儀」「交歓の儀」「行列の儀」「歓迎の儀」そして「昇天の儀」と五つの儀式で人々を魅了しました。稲垣実行委員長からは「古代人は人間関係がとでもしっかりしていて心が豊かでありました。このはにわ祭では古代人のそのような内面的な部分も感じていただければと思います。ぜひともこの祭が人間らしさを見つめ直すいい機会になっただけであれば幸いです」とあいさつがありました。

同日に行われた「産業祭」では、地元製品の販売やもちつきなどを目当てに集った多くの人でにぎわいました。「商工まつり」では恒例のウルトラクイズや大モチ投げ、そして熊本県特産品の販売支援を実施。メインステージでは、交流事業を行っている奄美市の伝統的な島唄などが披露されました。

古代からのメッセージを受け取り、一人一人が芝山町を考え、未来へつなぐメッセージのバトンはまた来年へと受け継がれました。



〈芝山町長賞〉

かるいざわかぜをかんじてはしりだす

今日の月大空港を照らしをり

〈議会議長賞〉

夏の夜家族みんなの手に花火

ジャンボ機の小窓が並ぶ鯛雲

〈成田国際空港株式会社賞〉

宿題が私にやれとささやいた

船上のさぬきうどんや盆帰省

〈教育長賞〉

秋の夜空と交わる一直線

グラウンドで流した汗は青春だ

〈公民館長賞〉

秋の空広すぎてぼくが情けない

鶏頭に風ぶつかってゐたるかな

はにわ祭

第五回俳句大会

昨年に引き続き、水無月句会主催の「はにわ祭俳句大会」が同日に開催されました。今年には町内外から小中学生の部に756句、一般・高校生の部に554句もの応募がありました。俳誌「野火」主宰の菅野孝夫氏によって部門ごとに入賞作品が選ばれ表彰式が行われました。作品は左記のとおりです。

鈴木 康太(芝山小)

岩澤 秀二(八千代市)

伊藤 光玲(芝山小)

小田 笑(稲城市)

岩澤 朱里歩(芝山小)

佐々木由紀子(我孫子市)

滝島 叶都(芝山中)

鈴木 康介(多古高)

松本 大河(芝山中)

内田 恵里子(加須市)

